

日本神経科学学会 Web 総会

日本神経科学学会
会長 柚崎 通介
庶務理事 磯村 宜和

総会は本学会の一年間の活動を会員の皆様にご覧いただき、皆様のご意見をいただく大切な機会です。昨年に引き続き、本年も COVID-19 蔓延防止のために Web 開催での総会とさせていただきます。多数のご投票と貴重なご意見をお寄せくださいまして厚くお礼を申し上げます。本学会の健全な運営のために、皆様のご意見を理事会や各委員会で共有し議論さ

せていただきます。

本学会の今後の発展のために、引き続き、会員の皆様の積極的な学会活動へのご参加をお願い致します。

2021 年度 日本神経科学学会 総会報告

日時：2021 年 7 月 20 日～ 31 日

会場：Web 開催

参加者数：1,380 名（※審議資料を閲覧した人数）

審議資料について

審議資料に微修正を加えることを

承認する：1,379 名

承認しない：1 名

承認が参加者数の過半数を超えました。

<誤植訂正のお知らせ>

総会開始日 7 月 21 日に、資料に下記の誤植が見つかりましたので、修正させていただきました。

(P.10 Neuro2022 の開催日)

誤) June 28-31, 2022

正) June 30-July 3, 2022

ご迷惑をお掛け致しまして申し訳ございませんでした。

審議事項 1 会計報告

この議案を承認する：1,378 名

この議案を承認しない：2 名

上記の通り、賛成が参加者数の過半数を超えましたので、審議事項 1：会計報告は承認されたものといたします（日本神経科学学会 会則 第二十一条）。

会員より寄せられたご意見

- 表記的事項 1) 数値単位の明記が必要 2) 日本語版が必要
- 1. すでに何度も議論されているのですが、日本語版は提供しないのでしょうか。
- 2. 当初大幅な赤字予算であったのが、トントンになった経緯はどこかに簡潔でよいので説明があった方が良かったと思うのですが。
- 会計の内容ではなく、正会員の学会参加費用に関しての意見で、6～7年前と比べて近年 10,000 円近く値上がりしているのは問題なのではないでしょうか？ Activity report にもデータがありますが、会員数が 2 割減になっているのは、大会参加費用の問題があると思われます。
- 資産の減額の見通しを聞きたい。

山中会計理事よりご説明

会員数の漸減傾向と学会運営の IT 化対応のための支出増等により、当初は赤字予算となっていました。2020 年度は学会のオンライン開催により各種国際交流事業、大会関連行事に係る支出が削減され、さらに IT 化と業務効率化による支出減と合わせて、年次決算の赤字は回避されました。引き続き業務の効率化を進め、学会員の活動に寄与し、長期的に安定した学会運営に向けて努力して参ります。

毎年度、資産を留保していることについては、1 億円

超となる大会決算に不測の事態により大きな赤字が生じた際に補填するための安全弁として必要と考えております。

大会参加費用については、今回の総会での議題とは外れますのでここでは詳細はお答えしません。引き続き、コストを合理化してできる限り大会参加費用を抑える努力は続けていきますのでどうかご理解とご支援をいただきますようお願い致します。

磯村庶務理事よりご説明

これまで、総会の資料は英語版のみとなっております。今回は審議事項に会則改訂があったため、今年は特別に、その部分だけ日本語の資料を入れたという経緯になります。来年度以降の日本語版のご提供につきましては、今後の検討課題とさせていただきます。ご意見ありがとうございました。

審議事項 2 会則改訂

この議案を承認する：1,373名

この議案を承認しない：7名

上記の通り、賛成が参加者数の3分の2を超えましたので、審議事項2：会則改訂は承認されたものといたします（日本神経科学学会 会則 第二十四条）。

会員より寄せられた意見

- 理事は評議員の中から選ばれるのではないのでしょうか？
- 評議員の会費は一般の正会員と同じなのでしょうか？
- 評議員の基準等について。
 1. 会員年数が10年というのは非常に長く感じます。臨床医の場合、研究開始が遅いこともあります。若手を増やす意味でも、会員年数7年とかどうでしょうか。
 2. 新陳代謝をはかるため、評議員は連続10年までとし、2年後に自ら再度申請できる（その際は推薦者不要）としてはいかがでしょうか？
- 第5条4を提案通り修正するのであれば、第5条4と5の順番が逆の方がいいのではないかと思われま
- 第5条4を提案通り修正するのであれば、第5条4と5の順番が逆の方がいいのではないかと思われま
- 今回の変更には関係ない部分ですが、休会に関して、産休育休に限る必要があるのか疑問に思いました。今やライフイベントは出産だけでなく、育休の範囲外の育児、介護、自身の身体上の都合など、多岐にわたります。また、休会の理由をライフイベントに

絞るメリットもあまり感じられないように思います。学会員の様々な都合を柔軟に受け入れてもらえる学会であってほしいと願います。

- 評議員になると年会費が一般会員より高額になるという可能性は今後ありうるでしょうか
- 法人化すると制約が増えるので会員が慣れるまでしばらく大変だと思います。変更点を分かりやすく会員へご説明いただけると良いと思います。
- 評議員の選定は、会員によるオンラインの直接投票により行うことが望ましいと考えます。
- 1. 若手会員手続きは承認。2. 評議員制度は評議員任命のための会員選挙が必要と考えるため承認しない。

磯村庶務理事よりご説明

健全かつ安定した学会運営のための法人化を見据え、その第一歩として会員資格と評議員制度に関する会則の改定をご審議いただきました。現在、本学会の理事会および将来計画委員会学会体制WGが中心となり、他学会の法人化の実現例も参考にして、法人化の具体的な道筋を検討しております。皆様からの貴重なご意見を今後活かしてまいります。

本学会の評議員に適切な規模は数百名程度であると想定しております。この規模では会員歴10年とすることが妥当であり、会員歴が満たない適任者も多様性とバランスを考慮して推薦できる仕組みを付則に加えて、会員の皆様の声を幅広く反映できる制度設計といたしました。

評議員の任命には直接選挙が理想的ですが、現実的には運営上難しい面もございます。会員の種別、パネル、会費等につきましては、上記の場で引き続き慎重に検討を重ねていきたいと考えています。今後の総会で法人化に向けた会則の整備を改めてご審議いただければ幸いです。また、適宜、会員アンケートを実施して皆様からのご意見を活かすとともに、法人化に伴う変更点をわかりやすくお伝えできるように努めてまいります。

事務局よりご説明

産休・育休以外でも、介護、病氣療養など、理由をお知らせいただければ休会が可能ですのでご相談ください。過去には他にも徴兵などの理由でも休会をお認めした例がございます。

報告事項 1 庶務報告

会員より寄せられた意見

- 資料では日本語版があった方が親切。（既に表記言語に関して検討が行われ、日本語又は英語で良いとの結論でしたら失礼いたしました。お読みとばしてください。）

※日本語版資料について：審議事項 1 の庶務理事からの説明をご参照下さい。

報告事項 2 第 44 回大会（2021）報告

会員より寄せられた意見

- 資料では日本語版があった方が親切。（既に表記言語に関して検討が行われ、日本語又は英語で良いとの結論でしたら失礼いたしました。お読みとばしてください。）
- 日本の神経科学全体が発展しますように、盛會を祈念いたします。
- コロナ禍開催ご苦労様でした。
- ハイブリッド開催はコストも参加費も高額になるようなので、コロナ禍が落ち着いたら今まで通りの対面にしてほしい。落ち着いたなかったら昨年のようにオンデマンド開催にしてほしい。
- オンラインとのハイブリッドにして全部 Zoom で見られたのはよかった。現地で参加していても、Zoom も使えると便利だと思う。
- 大会開催における関係者の努力には敬意を表します。しかしながら、オンサイト開催が望ましいことには同意しますが、今年はまだオンラインのみでの開催が望ましかったと考えます。コロナ禍が続く現状では多くの参加者がオンサイト参加を断念せざるをえませんでした。ハイブリッドは不便です。また、オンサイトのポスター会場の混雑具合はクラスターが発生しても不思議ではないです。

尾藤第 44 回大会長よりご説明

まずは多くの会員の皆様に第 44 回大会にご参加いただき、心から御礼申し上げます。

昨年の第 43 回大会後の参加者アンケートで、次年度大会のハイブリッド開催を希望する意見が多数であったことに端を発し、理事会での審議を経て、第 44 回大会のハイブリッド開催方式が決定されました。対面式・オンデマンド・ハイブリッドそれぞれの開催には長所短所があると思いますが、第 44 回大会の経験が、第 45 回大会へ引き継がれるよう努力して参ります。オンサイト会場の無線 LAN 回線については、本大会では会場関係者のご尽力でこれまでの神戸大会開催時に比べ大幅な容量増設が実現しましたが、快適な無線 LAN 環境の重要性について今後とも引き継いで参ります。

初めてのハイブリッド開催に当たり、会員の皆様にご不便をおかけしましたこと、心よりお詫び申し上げます。第 44 回大会を実施するに当たっては、兵庫県当局に届け出、神戸市ガイドラインを遵守し安心安全を第一に厳格な運営に努めました。会期直前まで、可能な限り多くの希望者の皆さんに、オンサイト参加からオンライン参加への振替を実施し、ポスターについてもバーチャル発表

者が大幅に増えました。会期中も、会食は親しい間柄のみ、かつ 2 名までに限る、という案内を周知させていただきました。オンサイトのポスター会場では、以下のような安全策を講じております。会場換気を徹底し、ポスターボードが密集しないように配置し、奇数・偶数のポスター番号で発表時間をずらし、隣のポスター発表とは必ず 3m（横幅 1.5m x 2）の距離を確保しました。また、事前健康状態調査票提出とポスター会場入場への動線を厳格に管理し、体温自動モニター・マスク着用チェックに加え、手指消毒徹底を建物入場時に毎回全員に確認致しました。ピーク時には瞬間的に混雑が見られたポスターがあったことは否めませんが、混雑の原因とした人流滞留が起きていないことも観察しております。人流滞留が起きれば入場制限を実施する準備も始めておりましたが、幸い混雑具合はそこまでひどくはなかったと現場では判断しております。

このような困難を乗り越え、大会参加に当たり、ご尽力・ご協力いただいた皆様に改めて心から御礼申し上げます。

※日本語版資料について：審議事項 1 の庶務理事からの説明をご覧下さい。

報告事項 3 第 45 回大会（2022）報告

会員より寄せられた意見

- 資料では日本語版があった方が親切。（既に表記言語に関して検討が行われ、日本語又は英語で良いとの結論でしたら失礼いたしました。お読みとばしてください。）
- 軽微な誤植等 P10 Neuro2022 の Date が June 28-31,2022 となっているが、P12 および公式 Web サイトに示されている通り June30-July3 の間違いと思われる。
- 現在のコロナウイルス感染状況を考えると 2022 年度も継続して感染対策が必要になる場合が考えられます。2022 年度大会についての開催概要や対策に関してはその時の現状を正確に捉え早めのご連絡をお願いしたいと存じます。
- 来年は、オンラインの良いところを残しながらも、是非オンサイト強化で。
- 沖縄大会を楽しみにしています。今の社会情勢が寛解していることを祈るのみです。（私の研究室も、Neuro2022 に行きたいから・・・と、進学を決意した者がいます。何とかありますように・・・）

銅谷第 45 回大会長よりご説明

当初の資料で日程表記の間違いを見落としており大変申し訳ありませんでした。コロナウイルスの状況を考慮

しつつ、可能な限り多くの方にオンサイト参加していただけるよう企画とサービスの充実を図りたいと思います。より良い大会の開催に向けて、引き続き会員の皆様からのご意見をお寄せください。第45回沖縄大会でお会いできることを楽しみにしています。

※日本語版資料について：審議事項1の庶務理事からの説明をご覧ください。

報告事項4 大会委員会報告

会員より寄せられた意見

- 資料では日本語版があった方が親切。(既に表記言語に関して検討が行われ、日本語又は英語で良いとの結論でしたら失礼いたしました。お読みとばしく下さい。)

大塚大会委員長よりご説明

これまで、総会の資料は英語版のみとなっております。今回は審議事項に会則改訂があったため、今年は特別に、その部分だけ日本語の資料を入れたという経緯になります。来年度以降の日本語版のご提供につきましては、今後の検討課題とさせていただきます。ご意見ありがとうございました。

報告事項5 Neuroscience Research 報告

会員より寄せられた意見

- 今年生物系のIFが軒並み上昇したが、何か特段の理由があるのでしょうか？
- 採択率、決定までの期間はとても重要な情報だと思います。Impact factorについては問題が数多く指摘されていますが、掲載するという事は日本神経科学学会として認めているということでしょうか？掲載するのであれば、他の指標も掲載した方がよいのではないのでしょうか？
- IF3を超えたことは素晴らしいことだと思います！
- IFを使用して、議論するのは、色々、問題があるかもしれませんが、何はともあれ、Neuroscience Researchの3越え 誠におめでとうございます。

上口機関誌理事・NSR編集主幹よりご説明

Neuroscience Researchの採択率は20%程度で推移しており、引き続き迅速かつ公正な審査に努めて参ります。別途メールでお知らせいたしましたが、今年からIFの算出方法が変更となっております。ご指摘いただきました通り、IF値のみでジャーナルの影響力を正しく評価することはできませんが、ご参考までに数値を資料に掲載しております。日本神経科学学会として正式に認めた評価方法ではございません。より良いジャーナルを目指して参りますので、会員の皆様からのご投稿をお待ちしております。